

# 交野市教委ニュース

第150号(令和4年3月7日発行)

## 長宝寺小学校に文化財パネルを設置しました！

文化財係では4月に発足する交野みらい小学校区内の史跡を説明した文化財パネルを、長宝寺小学校校舎の南側入り口に設置しました(写真)。これらパネルに描かれた2つの史跡は、長宝寺小学校と交野小学校区で共通する歴史文化の代表です。新校の校区内にある史跡のことを児童や保護者の皆さんにも知ってもらいたいと思います。

### 交野みらい小学校予定地周辺の歴史文化について

左側のパネルに大きく描かれたお寺が「長宝寺」です。郷土史家で画家の故・片山長三先生が描いたものです。この寺は小学校の北東にある郡津神社にあったとされ、飛鳥時代から平安時代まで栄えました。絵には私部側にも寺の門と塀が描かれています。私部地区の発掘調査からも同時期の瓦が出土していることから、郡津と私部一帯には古代寺院や交野郡の役所が広がっていたことが明らかになってきました。市役所別館にも片山先生が描いた同様のパネルを展示していますので、また見比べてみてください。

右側のパネルは「私部城」を描いたものです。別名「交野城」と呼ばれ、小学校の東側にある戦国時代の城跡です。中心は私部側ですが、外堀は免除川を利用しており、小学校のある郡津側まで伸びていました。近世初期の軍記物語『室町殿日記』では、小学校のある一帯まで「高津野」とよばれた湿地で、敵が攻め込むことが難しかったと記しています。また、安見一族が城に立てこもり、火縄銃や大筒などの火器を用いて織田軍を撃退したことも伝えています。歴史小説にも私部城主・安見氏のことを描いた『安見隠岐の罪状』や『右近と秀長一傍示の城』があり、「私部城」は近世以降の人々の関心を捉えた城といえます。



長宝寺小学校南側入り口に設置した文化財パネル